

マルコ1：40-2：17

「罪を赦す権威」

1:40 さて、ツァラアトに冒された人がイエスのみもとにお願いに来て、ひざまずいて言った。「お心一つで、私をきよくしていただけます。」 1:41 イエスは深くあわれみ、手を伸ばして、彼にさわって言われた。「わたしの心だ。きよくなれ。」 1:42 すると、すぐに、そのツァラアトが消えて、その人はきよくなった。 1:43 そこでイエスは、彼をきびしく戒めて、すぐに彼を立ち去らせた。 1:44 そのとき彼にこう言われた。「気をつけて、だれにも何も言わないようにしなさい。ただ行って、自分を祭司に見せなさい。そして、人々へのあかしのために、モーセが命じた物をもって、あなたのきよめの供え物をしなさい。」 1:45 ところが、彼は出て行って、この出来事をふれ回り、言い広め始めた。そのためイエスは表立って町の中に入ることができず、町はずれの寂しい所におられた。しかし、人々は、あらゆる所からイエスのもとにやって来た。

2:1 数日たって、イエスがカペナウムにまた来られると、家におられることが知れ渡った。

2:2 それで多くの人が集まったため、戸口のところまですきまもないほどになった。この人たちに、イエスはみことばを話しておられた。 2:3 そのとき、ひとりの中風の人が四人の人にかつがれて、みもとに連れて来られた。 2:4 群衆のためにイエスに近づくことができなかつたので、その人々はイエスのおられるあたりの屋根をはがし、穴をあけて、中風の人を寝かせたままその床をつり降ろした。 2:5 イエスは彼らの信仰を見て、中風の人に、「子よ。あなたの罪は赦されました」と言われた。 2:6 ところが、その場に律法学者が数人すわっていて、心の中で理屈を言った。 2:7 「この人は、なぜ、あんなことを言うのか。神をけがしているのだ。神おひとりのほか、だれが罪を赦すことができよう。」 2:8 彼らが心の中でこのように理屈を言っているのを、イエスはすぐにご自分の霊で見抜いて、こう言われた。「なぜ、あなたがたは心の中でそんな理屈を言っているのか。 2:9 中風の人に、『あなたの罪は赦された』と言うのと、『起きて、寝床をたたんで歩け』と言うのと、どちらがやさしいか。 2:10 人の子が地上で罪を赦す権威を持っていることを、あなたがたに知らせるために。」 こう言ってから、中風の人に、 2:11 「あなたに言う。起きなさい。寝床をたたんで、家に帰りなさい」と言われた。 2:12 すると彼は起き上がり、すぐに床を取り上げて、みなの方を見て出て行った。それでみなの方がすっかり驚いて、「こういうことは、かつて見たことがない」と言って神をあがめた。 2:13 イエスはまた湖のほとりに出て行かれた。すると群衆がみな、みもとにやって来たので、彼らに教えられた。 2:14 イエスは、道を通りながら、アルパヨの子レビが収税所にすわっているのをご覧になって、「わたしについて来なさい」と言われた。すると彼は立ち上がって従った。 2:15 それから、イエスは、彼の家で食卓に着かれた。取税人や罪人たちも大ぜい、イエスや弟子たちといっしょに食卓に着いていた。こういう人たちが大ぜいいて、イエスに従っていたのである。 2:16 パリサイ派の律法学者たちは、イエスが罪人や取税人たちといっしょに食事をしておられるのを見て、イエスの弟子たちにこう言った。「なぜ、あの人は取税人や罪人たちといっしょに食事をするのですか。」 2:17 イエスはこれを聞いて、彼らにこう言われた。「医者が必要とするのは丈夫な者ではなく、病人です。わたしは正しい人を招くためではなく、罪人を招くために来たのです。」

導入

先月の聖餐式のメッセージの個所は、マルコ1：16-39でした。

そこで、イエスが権威をお持ちであることを学びました。イエスは、人間に対して、悪霊に対して、そして、病に対しても権威をお持ちです。

マルコは引き続き、イエスの権威をテーマに話を進めます。

今日の個所では、身体の癒しよりもはるかに重要なことについてイエスが教えておられることがわかってきます。

今日の個所、1章40節から2章17節は、宗教的な不可触民のためにイエスが来られたと教えます。

つまり、当時の宗教指導者たちから受け入れてもらえなかった人々のことです。

マルコは、イエスがその人たちのために何をしに来られたのかも明かします。

1章38節でイエスは、説教者であり教師というご自身の立場を明らかになさいました。しかし、多

くの人々を癒し続けました。

なぜでしょう。この時点から、イエスは誰かを癒される場合に、ご自身の正体や来られた理由について教える機会として用いられました。

癒しが本来の目的ではなく、何らかのメッセージを伝え教えるための癒しなのです。

今日は、癒しの奥に隠されたメッセージに注目していきましょう。

ここでマルコは、3つのポイントを挙げます。まず、1章40-45節のツァラト患者の癒しからです。

1. イエスは汚れた人のために来られた。(40-45節)

この個所で取り上げられているのはきよめです。

40節、41節、42節でその単語が登場します。

ツァラトは、感染性の皮膚疾患全般を指して使われた単語です。

ツァラトに冒された人は、汚れていると宣言され、地域社会から追放され、神からも見放された存在でした。

レビ記 13 : 45-46

13:45 患部のあるそのツァラトの者は、自分の衣服を引き裂き、その髪の毛を乱し、その口ひげをおおって、『汚れている、汚れている』と叫ばなければならない。 13:46 その患部が彼にある間中、彼は汚れている。彼は汚れているので、ひとりで住み、その住まいは宿営の外でなければならない。

モーセは、癒されたかどうか確認して癒された人を「きよい」と宣言する方法について詳細に指導しました。

きよくなった人は、神との交わりと神の民との交わりを回復するために、いけにえをささげなければなりませんでした。

一般の人がツァラトに冒された人に触ると、その人は汚れます。しかし、ツァラト患者はそのままです。

イエスはツァラト患者にあえて触れられましたが、イエスが汚れることはありません。そして、ツァラト患者は癒されてきよくなりました。

イエスはもちろん、離れたところから癒すこともおできになりました。

イエスにはそのような力があります。(マルコ2 : 5参照)しかし、あえてこの人に触れることを選ばれました。(41節)

イエスはツァラト患者に触れて癒すことで、この人はもはや社会からも神からも見放された存在ではないと宣言されたのです。

イエスは43-44節で、ツァラト患者に癒されたことを公にしないようにときっぱりおっしゃいました。

しかし、イエスが汚れた人をきよめられるお方であることの意味を示すことは望まれます。

イエスは決して、旧約聖書の律法や教えに対抗されません。

適用

神の目には、私たちひとりひとりもこの世に汚れた者として生まれました。私たちの罪が聖なる神から私たちを引き離しています。

イエスは私たちを罪からきよめ、神の目に受け入れられる者としてくださいます。

十字架上で死に、私たちの代わりに神の罰を受けることによってそうしてくださいます。

イエスを信じるすべての人のために身代わりにささげられたいけにえなのです。

証

私は以前、英国にいたとき、ツァラト患者と同じように人々から見放されていた人とゴルフをプレ

イしていました。

彼は昔、強盗でした。銃を持って郵便局に強盗に入り、大金を手に入れましたが、捕まって刑務所に入れられました。

彼を担当した保護観察官はクリスチャンでした。英国では、保護観察官が出所を間近に控えた囚人と面会します。そして、更生して社会復帰できるよう手伝います。

最後に担当した保護観察官がクリスチャンで、この男性に福音を分かち合いました。そして、その人は後にクリスチャンになりました。

世間の人々の目には、この人はいつまでもツァラト患者のような人のままです。しかし、神はこの男性を赦しておられました。

神がこの人のうちにすばらしいことをなしてくださったことは、生まれ変わった彼の生き方に示されています。

彼は後に宣教師になって、アフリカに渡りました。神がこの男性を祝福してくださったので、多くのイスラム教徒がクリスチャンになりました。

彼は捕らえられ、拷問を受けましたが、神に助け出されて、「語るべき時」という本を記しました。神は、ツァラト患者のように見放された多くの人々に福音を届けるためにこの本を用いておられます。そして、この本をとおしてクリスチャンになった人もいます。

私たちの救い主イエスはなんとすばらしいお方でしょう。このお方は今も、ツァラト患者のような多くの人々に触れてくださいます。そして、神の御国の拡大のために用いてくださいます。

神は今日、日本でも、それがおできになるお方です。

必要なのは、私たちが会おう人に福音を分かち合うことです。

2. イエスは、罪を赦す権威をお持ちである。 (2 : 1-12)

マルコは2 : 1-12で、イエスが汚れた人をきよめることができになると語ります。

興味深いのは、5節に登場するイエスの変わった受け答えです。

中風の人には明らかに癒しを求めています。イエスは初め、たましいの癒しのみに関心を持っておられました。

イエスはここで、赦しは体の癒しよりはるかに大きなニーズであることを示しておられました。

イエスが教師であると同時に癒し主であられたおもな理由はここにあります。

律法学者たちは、イエスがここで何をしておられたか理解していました。(7節)

すべての罪は神に対してのみ犯すものであるというのが彼らの論理です。

詩篇 51:4 私はあなたに、ただあなたに、罪を犯し、あなたの御目に悪であることを行いました。それゆえ、あなたが宣告される時、あなたは正しく、さばかれる時、あなたはきよくあられます。

ですから、神のみが罪を赦すことができると考えます。

すると、イエスは神ご自身であるか、神を冒瀆しているか、うそをついていることになります。

2 : 8-11でイエスは律法学者たちに語られました。

マルコ2 : 8b-11

「なぜ、あなたがたは心の中でそんな理屈を言っているのか。 2:9 中風の人に、『あなたの罪は赦された』と言うのと、『起きて、寝床をたたんで歩け』と言うのと、どちらがやさしいか。 2:10 人の子が地上で罪を赦す権威を持っていることを、あなたがたに知らせるために。」こう言ってから、中風の人に、 2:11 「あなたに言う。起きなさい。寝床をたたんで、家に帰りなさい」と言われた。

「あなたの罪は赦された」と言うのは簡単です。これを実行するのは難しいですが、本当にそうなったかどうか確かめることができないからです。

赦された人は赦されていない人と見かけは同じです。(その人はまだ中風のままです。)

「起きなさい。寝床をたたんで、家に帰りなさい」と言うのは簡単ではありません。それは、罪を赦すことよりも実行するのは簡単ですが、本当にそうだったかどうかすぐに確認できるからです。イエスがもし神を冒瀆しているなら（7節）、それがすぐに明らかになります。この人が寝床をたたんで歩くことができなければ、イエスの権威と力が疑われます。

そこでイエスは、言うのが簡単ではないけれど、すぐに本当かどうか確認できるほうのことを実行なさいました。当時そこにいた誰の目にも明らかでした。人々はその目を見たからです。

同時にイエスは、言うのは簡単だけれども確認できないこともなさいました。目に見えることを実行して、目に見えないこともなさいましたと証明されたのです。12節の最後から読みとれる結論は、イエスが神であるというものです。

マルコ2:12 すると彼は起き上がり、すぐに床を取り上げて、みなが見ている前を出て行った。それでみなの方がすっかり驚いて、「こういうことは、かつて見たことがない」と言って神をあがめた。

適用

「イエスを見せてくれたら信じます」と言う人がいます。そのような人に私はこう答えます。イエスを信じる人たちをとおして生きておられるイエスを見ることができます。人はクリスチャンになると、私たちの完全な救いの一部を聖霊から頭金のようにいただきます。私たちのいのちのその部分だけが、人々の目に見えるイエスなのです。

エペソ 1 : 13-14

1:13 この方にあつてあなたがたもまた、真理のことば、あなたがたの救いの福音を聞き、またそれを信じたことにより、約束の聖霊をもって証印を押されました。 1:14 聖霊は私たちが御国を受け継ぐことの保証です。これは神の民の贖いのためであり、神の栄光がほめたたえられるためです。

ですから、神の愛と赦しが私たちの生き方にあらわれているなら、イエスが確かに罪を赦す権威をお持ちであるという証に説得力を持たせることができます。

イエスは罪を赦す権威をお持ちです。

中風の人の体が癒されたことで、イエスというお方に注目が集まりました。

この人は神に違いない、神だけが罪を赦すことがおできになるのだから、ということです。

3. イエスは正しい人のためではなく、罪人のために来られた。（13-17節）

パリサイ人は、皆が罪人だとは考えていませんでした。明らかに罪深い生き方をしている人だけが罪人だと考えました。

取税人はとくに人々から嫌われ軽蔑されていた人々の代表例です。

ツァラト患者と同じように、取税人と食事をした人はその人も汚れます。

律法学者やパリサイ人はある疑問を持ちました。

「イエスは罪を深刻なものと捉えているのだろうか。

イエスが罪人といっしょに食事をすれば、イエス自身も汚れてしまうはずだ。

それなら、イエスは本当にイエス自身が主張するとおりの人なのだろうか。…」

宗教指導者たちの心の中にあつたこういう疑問に、イエスはお答えになりました。

マルコ2:17 イエスはこれを聞いて、彼らにこう言われた。「医者が必要とするのは丈夫な者ではなく、病人です。わたしは正しい人を招くためではなく、罪人を招くために来たのです。」

17節の言葉で、イエスは何を言おうとなさったのでしょうか。

7章1-23節を読むと、神の目には誰ひとりとして正しい人はおらず、イエスが来られたのはすべての人を救うためであることがわかります。すべての人が救いを必要としているからです。

7:1 さて、パリサイ人たちと幾人かの律法学者がエルサレムから来ていて、イエスの回りに集まった。7:2 イエスの弟子のうち、汚れた手で、すなわち洗わない手でパンを食べている者があるのを見て、7:3 ——パリサイ人をはじめユダヤ人はみな、昔の人たちの言い伝えを堅く守って、手をよく洗わないでは食事をせず、7:4 また、市場から帰ったときには、からだをきよめてからでないと食事をしない。まだこのほかにも、杯、水差し、銅器を洗うことなど、堅く守るように伝えられた、しきたりがたくさんある——7:5 パリサイ人と律法学者たちは、イエスに尋ねた。「なぜ、あなたの弟子たちは、昔の人たちの言い伝えに従って歩まないで、汚れた手でパンを食べるのですか。」7:6 イエスは彼らに言われた。「イザヤはあなたがた偽善者について預言をして、こう書いているが、まさにそのとおりです。『この民は、口先ではわたしを敬うが、その心は、わたしから遠く離れている。7:7 彼らが、わたしを拝んでも、むだなことである。人間の教えを、教えとして教えるだけだから。』7:8 あなたがたは、神の戒めを捨てて、人間の言い伝えを堅く守っている。」7:9 また言われた。「あなたがたは、自分たちの言い伝えを守るために、よくも神の戒めをないがしろにしたものです。7:10 モーセは、『あなたの父と母を敬え』、また『父や母をののしる者は死刑に処せられる』と言っています。7:11 それなのに、あなたがたは、もし人が父や母に向かって、私からあなたのために上げられる物は、コルバン(すなわち、ささげ物)になりました、と言えば、7:12 その人には、父や母のために、もはや何もさせないようにしています。7:13 こうしてあなたがたは、自分たちが受け継いだ言い伝えによって、神のことばを空文にしています。そして、これと同じようなことを、たくさんしているのです。」7:14 イエスは再び群衆を呼び寄せて言われた。「みな、わたしの言うことを聞いて、悟るようになりなさい。7:15 外側から人に入って、人を汚すことのできる物は何もありません。人から出て来るものが、人を汚すものなのです。」7:17 イエスが群衆を離れて、家に入られると、弟子たちは、このたとえについて尋ねた。7:18 イエスは言われた。「あなたがたまで、そんなにわからないのですか。外側から人に入って来る物は人を汚すことができない、ということがわからないのですか。7:19 そのような物は、人の心には、入らないで、腹に入り、そして、かわやに出されてしまうのです。」イエスは、このように、すべての食物をきよいとされた。7:20 また言われた。「人から出るもの、これが、人を汚すのです。7:21 内側から、すなわち、人の心から出て来るものは、悪い考え、不品行、盗み、殺人、7:22 姦淫、貪欲、よこしま、欺き、好色、ねたみ、そしり、高ぶり、愚かさであり、7:23 これらの悪はみな、内側から出て、人を汚すのです。」

けれども、自分で自分を正しいとし、罪の赦しを必要としない人のためには、イエスは来られなかったとおっしゃっています。

2千年後の今も、まったく何も変わっていません。ほとんどの人は、他の人と比べて自分の生き方を判断し、100%聖なる神の基準で判断することはしません。

英国にいる私のゴルフ友だちは、今でも世間から更生した犯罪者として軽蔑されます。

しかし、神の目に彼はすでに赦され、受け入れられ、神に深く愛されている者です。

クリスチャンを見て神や聖書の教えを判断することはできません。けれども、イエスに目を向ければ、イエスはあなたの罪と赦しの必要性を示してくださるでしょう。

主イエスの死を覚えてパンとぶどうジュースを受ける前に、私たちの罪が赦されていることと神のきよめの力が私たちのうちに働いていることを確信しましょう。

まだクリスチャンでない人は、神の目には、あなたはきよめを必要とするツァラト患者のような存在です。

皆さん目を閉じてください。今日クリスチャンになろうと思った方は、目を開けて、前のスクリーンに表示される祈りをいっしょにお祈りください。声に出してもよいですし、心の中でお祈りしてもけっこうです。そうすれば、神の赦しときよめを今日、自分のものにすることができます。

父なる神、聖書の神よ。私は100%きよい者ではありません。これまでにあなたを怒らせるようなことをしたことがあると認めます。
どうか今、それらのことについて私をお赦してください。あなたの御子イエス・キリストが私の罪の罰を負って成してくださった御業によってお赦してください。
どうか、私の主、そして救い主として私のうちにお入りください。
日々、あなたに助けをいただいで、あなたについていくと約束します。
アーメン。